

平成 30 年 7 月 24 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会



1 日 時 平成 30 年 7 月 24 日 (火曜日)

午後 1 時 20 分から午後 2 時 10 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

教育長 高橋 謙            委 員 鷲尾 達雄            委 員 羽賀 友信  
委 員 青柳 由美子        委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	金澤 俊道	子ども未来部長	波多 文子
教育総務課長	曾根 徹	教育施設課長	遠藤 雄一
学務課長	佐藤 正高	学校教育課長	小池 隆宏
学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久	学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之
学校教育課主幹兼管理指導主事	丸山 巧	中央図書館長	山田 あゆみ
科学博物館長	小熊 博史	子ども家庭課長	大矢 芳彦
保育課長	田辺 亮	青少年育成課長	斎藤 裕子
学校教育課学校支援係長兼指導主事	斎藤 豊		

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	安達 紀子	教育総務課庶務係長	佐藤 裕
教育総務課庶務係	本田 雄一		

## 6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 33 号	長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について
3	第 34 号	平成 31 年度使用教科用図書採択について

## 7 会議の経過

(高橋教育長) これより教育委員会 7 月定例会を開会する。

---

### ◇日程第 1 会議録署名委員について

(高橋教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、鷲尾委員及び大久保委員を指名する。

---

### ◇日程第 2 議案第 33 号 長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について

(高橋教育長) 日程第 2 議案第 33 号 長岡市教職員住宅管理運営規則の一部改正について を議題とする。事務局の説明を求める。

(佐藤学務課長) 越路来迎寺教職員住宅、栃尾中野俣教職員住宅について、現在入居者がおらず、かつ老朽化等で今後も入居が見込めないため、今年度中に取り壊して廃止する予定である。これに伴い、「長岡市教職員住宅管理運営規則」から削除するものである。いずれも、9 月に解体工事の発注を行い、降雪前には工事を終了する予定である。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(羽賀委員) 現在使用されていない越路来迎寺と栃尾中野俣の教職員住宅を取り壊すということだが、山古志の教職員住宅も現在使用されていないと思う。第 2 条の

表にある、ほかの教職員住宅の使用状況について伺いたい。

(佐藤学務課長) 教職員住宅は10か所あり、そのうち越路飯塚、小国新町、寺泊、  
栃尾巻渕の教職員住宅4か所に入居者がいる。このほかの越路来迎寺、三島日の出  
町、山古志、栃尾中野俣の2か所、与板の教職員住宅6か所に入居者はいない。

(高橋教育長) 入居者がいる教職員住宅について、何人の入居者がいるのか。

(佐藤学務課長) 越路飯塚教職員住宅は5部屋のうち4部屋に、栃尾巻渕教職員住  
宅は12部屋のうち1部屋に、寺泊教職員住宅は12部屋のうち8部屋に、小国新町  
教職員住宅は10部屋のうち1部屋にそれぞれ入居者がいる。

(高橋教育長) 小国新町と栃尾巻渕の教職員住宅にいる入居者が退去し、新規の入  
居者がいない状況が何年か続くならば、取り壊しを検討するのか。

(佐藤学務課長) 検討する。小国新町教職員住宅は、築23年と比較的新しい建物  
であるので、その後の活用なども含めて検討する。いずれも入居者がいる間は、取  
り壊しの検討は行わない。社会的背景を含めて、全体的に教職員住宅のニーズが減  
っているものとする。

(高橋教育長) 教職員住宅は、安価で他にアパートがない地域においては便利であ  
る。だが、学校までの通勤が困難な状況ではないと積極的に教職員住宅に入居する  
理由はないものと思われるがいかがか。

(佐藤学務課長) そのとおりであり、現に空いている部屋がほとんどである。

(高橋教育長) これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議な  
いか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) 異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

---

◇日程第3 議案第34号 平成31年度使用教科用図書の採択について

(高橋教育長) 日程第3 議案第34号 平成31年度使用教科用図書の採択につい  
て を議題とする。これについては公表前であるので、非公開が適当ではないかと  
思うが、他の委員の方々はいかがか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) では、非公開とする。

---

会議規則第 20 条第 2 項の規定により記録中止

---

(高橋教育長) 以上をもって、本日の議案の審議は終了する。

---

(高橋教育長) 次に、協議報告事項に移る。最初に、平成 29 年度長岡市の児童生徒の問題行動等について事務局の説明を求める。

(小池学校教育課長) 長岡市の児童生徒の問題行動等について、文部科学省による調査実施に基づく調査結果から報告する。初めに、いじめについてであるが、平成 29 年度の認知件数は、小学校が 57 件、中学校が 36 件、合計 93 件であった。平成 28 年度の認知件数 55 件と比べて 1.7 倍に増加している。これは、児童生徒、保護者、教職員それぞれがいじめを見逃さないという意識で取り組み、報告が上がった結果であると捉えている。いじめの態様は、小・中学校ともに、「嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする」や「冷やかしからい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が多い。また、発見のきっかけは、被害児童生徒本人の訴えが最も多く、続いて、被害保護者からの訴えであった。いじめへの取組は、教職員が指導力を一層高めることができるように、小学校の生活指導主任や中学校の生徒指導主事に向けた研修会を実施した。さらに、すべての中学校区で「いじめ見逃しゼロスクール集会」を実施し、小・中学校と保護者・地域が連携していじめを見逃さない・許さないという取組を進めている。次に、不登校についてであるが、平成 29 年度の年間 30 日以上欠席者数は、小学校が 69 人、中学校が 179 人、合計 248 人であった。平成 28 年度の 240 人と比べて 8 人の増加である。小・中学校ともに、「無気力の傾向」「不安の傾向」「学校での人間関係の課題」が多い傾向にあり、主な原因は、「家庭に係る状況」「いじめ以外の人間関係の問題」「学業の不振」が多かった。不登校への取組は、学校からの定期的な報告により児童生徒の状況を的確に把握するとともに、場合によってはサポートチームを編成し対応に当たるなど、早期発見と早期対応に力点を置き、学校と連携しながら対応を進めた。さらに、臨床心理士を講師に招き、「不登校で悩んでいる親の会」を開催し、不登校の解消に向けた対応を行っている。また、市内適応指導教室ではパンフ

レットを作成し、不登校の子どもを持つ保護者への周知に努め、学校への復帰に向けた活動や支援の充実を図っている。最後に、暴力行為について説明する。平成29年度は小・中学校ともに7件ずつの発生で、合計14件であった。小学校は7件すべてが「ズボン下ろし」、中学校は「器物破損」が2件、「生徒間暴力」が1件、「対教師暴力」が4件である。ズボン下ろしについては、校長会や生徒指導主事会での現状の説明や各校での指導強化の要請、市の生徒指導研究会のたよりを活用した啓発を行った。器物破損や対教師暴力が繰り返し起きた中学校については、サポートチームを編成し連携した対応を行った。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(鷲尾委員) 不登校への取組について、月に7日以上授業に出席できない児童生徒、年間30日以上欠席が予想される児童生徒について、毎月各校からの報告を指示するとある。これは、例えば、この報告の基準外だが特殊性のある案件で報告した方が良いと学校側が判断した場合にも、教育委員会に報告することはあるのか。それとも報告はあくまでこの基準に基づき行われているのか。

(斎藤学校教育課学校支援係長兼指導主事) 基本的にはこの基準に基づき報告が行われているが、学校側が不登校傾向が続いているために心配であると判断した案件については、その都度報告が上がってきている。

(羽賀委員) いじめの指導継続件数について、平成27年度が2件、平成28年度が5件とあるが、この継続はどこかで解消となっているのか、それともまだ続いているのだろうか。

(斎藤学校教育課学校支援係長兼指導主事) 現在、指導継続中の案件は平成28年度のもので1件、平成29年度のもので1件である。

(大久保委員) 中学生は登校時、制服の下に体操着を着用している。暴力行為である「ズボン下ろし」が発生している背景には、下に体操着を着ているからズボンを下ろしてもいいのではないかと、と行為を軽く考えている子が多いからではないかと思われるがいかがか。

(斎藤学校教育課学校支援係長兼指導主事) 行為の動機として、子どもたちが安易に悪ふざけで行ったものがほとんどである。こらしめてやろうなどの悪意があるものではなく、テレビなどの影響を受け、面白半分で行っており、仲の良い子ども同

士の間で発生している。

(高橋教育長) 不登校の原因の「家庭に係る状況」について、具体的に原因として挙げられる代表的なものは何か。

(斎藤学校教育課学校支援係長兼指導主事) 事務局で把握している中では、家の中が不衛生、家庭の教育力が低い、保護者が精神的な病気に罹っている、などの原因によるものがある。

(高橋教育長) 「不登校で悩んでいる親の会」の講師を務める臨床心理士は、毎回不登校専門の知識を持った同じ方を招いているのか。

(斎藤学校教育課学校支援係長兼指導主事) 年間を通して、同じ臨床心理士にお願いしている。

(高橋教育長) 同じ臨床心理士のほうが、相談する側と相談を受ける側、双方にとって良いと思うので、現在の臨床心理士を継続的にお願いするよう配慮してほしい。そして、「ズボン下ろし」について、仲の良い子どもたち同士が軽い気持ちで行った行為であったとしても、それは紛れもなくいじめである。その点をしっかり説明したうえで、無くしていく努力をこれまで以上に行っていきたい。

(高橋教育長) 次に、附属機関等会議報告について事務局の説明を求める。

(山田中央図書館長) 平成30年度第1回長岡市栃尾美術館協議会について報告する。7月9日に栃尾美術館にて、委員8名のうち7名、金澤教育部長と他事務局が出席のもと開催した。会議では、平成29年度後期事業報告、平成30年度事業計画(案)、平成29年度に寄贈をうけた作品を栃尾美術館の収集資料とすること、の3件について承認をいただいた。寄贈作品は、日本画家穂苺春雄さんの150号の大作1点、栃尾出身の方が収集した韓国の陶磁器73点である。いずれも今春の美術館所蔵品展にて展示し、好評であった。また、会議では、今後の美術館運営のあり方について意見交換を行った。主な意見として、こども向けの事業を開催するなかで、大人の作家の作品を展示し、本物を鑑賞できる機会を作ることも良いのではないか、などがあった。

(高橋教育長) 3Dプリンターなどを使った子供向けの講座は可能か、という意見が出ているが、NaDeC BASE(ナデックベース)で子どもたちが体験できるので参考にしてほしい。



(大矢子ども家庭課長) 平成30年度第1回長岡市子ども・子育て会議について報告する。7月2日にながおか市民防災センターにて、委員20名のうち19名、アドバイザーとして県立大小池教授と他事務局の出席のもと開催した。この度の改選で、3分の2の委員が変わった。会議の内容は、(1)委員長及び副委員長の選出、(2)平成30年度長岡市子ども・子育て会議について、(3)長岡市の子育て支援施策について、であった。(2)については、子ども・子育て会議の役割として、「子どもの貧困対策についての検討ワーキング部会」と「長岡市の療育・相談体制についての検討ワーキング部会」の設置について説明をした。(3)については、平成30年度の子育て支援政策で特に力を入れている政策について説明をしたのちに、質疑を行った。そこで出た主な質問は、保育園の途中入園について、放課後発達支援コーディネーター・放課後子どもプラン推進コーディネーターについて、認定こども園化について、生活実態調査について、病児・病後児保育についてであった。生活実態調査は、いわゆる子どもの貧困の実態調査である。この8月に4,000世帯を無作為抽出し、18歳未満の子どもがいる世帯に調査票を配布する予定である。最後にアドバイザーから、生活実態調査の対象者について、特に実態を知りたい、生活が厳しい家庭などが調査に協力してくれるのかという不安はあるが、この調査だけですべてを把握しようとするのではなく、行政が持っているいろいろな窓口等での情報との組み合わせで長岡市全体の子育て世帯の状況を把握し、何が必要なのかを考えていければと思う、などのまとめをいただいた。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(青柳委員) 3分の2の委員が変わったとのことだが、何か意図するところがあったのか。

(大矢子ども家庭課長) 委員の任期が2年のため、2年ごとの改選となる。子育て分野などの各分野で活躍されている団体の方々からご推薦いただく委員が変わったことと、3名の公募委員が変わったことで、3分の2の委員の方が変わった。

(高橋教育長) 他に、質疑、意見はあるか。

(大矢子ども家庭課長) 続いて、平成30年度長岡市要保護児童対策地域協議会代表者・実務者会議について報告する。7月5日にさいわいプラザにて開催した。長岡市要保護児童対策地域協議会については、児童虐待に係る各関係機関の集合

体である。各機関のトップの方々が年に1回、一堂に会する会議がこの代表者・実務者会議である。各関係機関の取組や現状と課題などを各関係機関と共有し、顔が見えてスムーズな連携がとれるよう努めている。協議会は国や県の機関、警察、医師会などの団体、NPO法人などと市の関係部局にて構成されている。会議の出席者は外部機関21名、スーパーバイザーとして新潟医療福祉大学社会福祉学部鈴木昭教授、市の関係部局の計31名であった。会議では、要保護児童対策地域協議会の運営について、平成29年度の相談対応状況等の報告と平成30年度活動計画について説明した。まず、長岡市の児童虐待対応件数は、平成29年度が89件で、平成28年度の92件と比べ、ほぼ横ばい。相談対応件数は、平成29年度が355件で、平成28年度の343件と比べ、こちらもほぼ横ばいであった。次に、構成機関の取組について、関係機関から報告をいただいた。最後にスーパーバイザーから、児童虐待は家庭における課題が複雑化しており、解決するためには総合的・包括的に対応することが求められており、日ごろの子どもの健全育成が虐待のない街づくりに繋がるとのアドバイスをいただいた。また、長岡市では、子どもに関わる機関が虐待予防活動を充実させており、ままりらなどの様々な窓口で相談しやすい環境を整えていることもよい取組であると評価をいただいた。

(高橋教育長) 質疑、意見はあるか。

(鷲尾委員) 今年度に教育委員会として取り組むテーマのひとつに、子どもの貧困の実態調査があげられていたが、第1回子ども・子育て会議で説明のあった生活実態調査は、この調査が該当するという理解でよいか。

(大矢子ども家庭課長) よい。

(高橋教育長) もう各家庭に発送したのか。

(大矢子ども家庭課長) 8月のお盆前を予定している。

(高橋教育長) 要保護児童対策地域協議会の代表は誰になるのか。

(大矢子ども家庭課長) 波多子ども未来部長である。

(高橋教育長) 他の機関と連携を密にし、異なる組織が要保護児童対策地域協議会としてひとつにまとまって動かなければならない。全体で動く場合や他の構成機関と動く場合があるだろうが、素早く動かなければならない場面が必ずあると思う。その時に代表者が躊躇することなく指示を出し、動いていただきたい。

(高橋教育長) 質疑、意見はないか。

(高橋教育長) 次に、催し案内について、補足説明のあるものは挙手を願う。

(小池学校教育課長) キャリア教育特別授業「夢先生」を、8月28日から31日まで市内の小学校4校において行う。日本サッカー協会に委託し、元サッカー日本代表等の一流の実績を持つスポーツ関係者を講師として迎え、その実体験に基づく授業を通して、小学生に失敗を乗り越えて夢や希望に向けて努力していこうとする意欲や態度を育む。次に、夢づくり工房 in 長岡造形大学を、8月6日と7日に長岡造形大学において行う。長岡造形大学の教授などを講師に迎え、希望した「大空へ夢を飛ばそう!」「布を青く染めよう!」の2コースで創意あふれる作品作りに挑戦する。小学校1年生から3年生が対象で、定員160人のところ、大変盛況で330人の申込みがあった。

(高橋教育長) 今年度、既に実施した「夢先生」はどういった種目の先生であったか。

(金澤教育部長) サッカー、女子サッカー、武道、キックボクシングであった。

(鷲尾委員) 以前サッカーの「夢先生」を見学した時に、引退後のライフプラン、セカンドキャリアの一環として、子どもたちの前で体験談を話す教育を受けている、と聞いたが、例えば格闘家などが、夢先生を行うための勉強や、児童生徒の前で話すトレーニングを受けることはあるのだろうか。

(高橋教育長) 「夢先生」事業は、日本サッカー協会が主催しており、プロサッカー選手の引退後の生活のためにスタートしたものである。現在ではサッカーに限らず、様々な種目の選手がおり、研修などを行ったうえで「夢先生」として派遣している。昨年4月に「夢先生」事業が始まって10年目の節目を迎えるにあたり、事業を展開している自治体の教育長が集まる機会があった。私も参加したが、全国でかなりの数の自治体の参加があり、そこに来ていた選手の種目は、マラソンや水泳、バレーボールなど多種多様であった。

(小池学校教育課長) 「夢先生」として登録している方は延べ1,000人くらいいる。しかし、全国で講演を継続的に行っている方は300人くらいである。ただ、引退後に「夢先生」だけで生活をしていくのは少し厳しいという現状もある。

(高橋教育長) 「夢先生」を依頼する際に、全部は無理でも少しでも種目を選べる

と良い。こういった種目の「夢先生」が派遣されるのかこちらに決定権はないが、いろいろな種目の方に来ていただけるのは子どもたちにとっても良いことだと思う。

(小熊科学博物館長) 特別展「三仏生式土器をさぐる―新潟県内の様相」を、馬高縄文館において7月21日から9月2日まで開催している。三仏生式土器は、縄文時代の後期、約4,000年前ごろに流行したものである。

(山田中央図書館長) 林真理子講演会を10月15日に市立劇場にて開催する。現在申込受付中だが、すでに定員を超えているため、かなりの高倍率となる。次に、米百俵号ブックカーニバルとして、夏休み期間に市内の児童館や児童クラブを自動車文庫「米百俵号」が特別巡回する。図書の貸し出しや、読み聞かせ・工作などのお楽しみ会を行う。次に、夏休み☆まいにち工作を7月31日から8月12日まで、また夏休み☆こども造形講座を8月17日から19日まで、栃尾美術館で開催する。次に、アーティストトークを8月18日に栃尾美術館において開催する。開催中の企画展「池田光宏展きつとそれも誰かの仕業」関連イベントとして、アーティストで長岡造形大学教授の池田光宏氏が作品の解説を行う。

(大矢子ども家庭課長) 平成30年度版子育てガイドを発行した。今年度拡充したままりラとままナビ、子育てあんしんの避難所、病児・病後児保育の情報などを掲載している。子育ての駅、保育園・幼稚園、児童館・児童クラブ、市内小児科・病院など約300か所に配布し、設置を依頼している。また、おやこスマイルガイドを改訂し発行した。子育て不安の解消や子育て力・家庭教育力向上に役立つアドバイス集である。今までは、母子健康保健手帳の交付の際に配布していたが、あまり効果的でなかったため、今年度から配布の方法を変え、5か月から7か月の子ども対象の乳児検診の際に配布することとした。また、小学生以下の子が転入してきた際にも、アオーレや市民窓口、各支所の転入窓口で配布している。

(斎藤青少年育成課長) 家庭でワクワクお手伝い通信第47号を市内全小・中学校に配布した。夏休み期間中のお手伝いのすすめ、深沢小学校の取組、家庭でワクワクお手伝いポスターコンクールの案内を掲載している。次に、親も育つ子育てセミナー児童・思春期コースを9月12日から開催する。全8回で、毎回異なる講師に子育てに関する情報を提供していただくとともに、仲間づくりをしていただく講座

となっている。次に、たった一人の大切なあなたへ、という青少年育成センターでの電話・メール相談窓口の周知を図るために、PRカードを市内全小・中・高等学校の児童生徒全員に配布した。併せてポスターも市内の公共機関に掲示するとともにカードも設置している。

(高橋教育長) その他に報告事項はあるか。

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

---

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員